

# 塩竈市立病院新改革プラン

## 令和5年度の実施状況の評価について

令和6年10月1日

塩竈市立病院事業調査審議会



## 目次

「塩竈市立病院新改革プラン」令和5年度の評価にあたって .....	1
塩竈市立病院事業調査審議会 会長 藤森研司	
1. 患者数・診療単価、医業収益の概要 .....	2
(1) 患者数・診療単価等の概要 .....	2
①入院の概要 .....	2
②外来の概要等 .....	4
(2) 医業収益目標の達成状況 .....	8
2. 新改革プラン数値目標の達成状況及び取組状況 .....	11
(1) 地域医療構想を踏まえた役割の明確化 .....	11
(2) 経営の効率化 .....	15
①数値目標の達成状況 .....	15
②診療科別患者数・診療単価・医業収益目標の達成状況 .....	18
③経営の効率化に向けた具体的な取組状況 .....	20
3. 令和5年度決算見込みの概要 .....	26
(1) 令和5年度決算見込みの概要 .....	26
(2) 収益的収支の概要 .....	27
(3) 資本的収支の概要 .....	30
(4) 一般会計繰入金の概要 .....	31
4. 総合的な評価 .....	34
(1) 総合的な評価 .....	34
(2) 総評 .....	35
<b>【参考資料】</b> .....	36
(1) 塩竈市立病院事業の主な経営指標 .....	36
①主要な経営指標 .....	36
②医師一人当たりの患者数 .....	36
(2) 宮城県内主要公立病院との比較 .....	37
①修正医業収支比率及び修正医業収益 .....	37
②他会計繰入金対総収益比率 .....	37
③患者1人当たり診療単価 .....	38
塩竈市立病院事業調査審議会委員名簿 .....	39

## 「塩竈市立病院新改革プラン」令和5年度の評価にあたって

塩竈市立病院は、平成28年度に「塩竈市立病院新改革プラン」を策定し、地域医療構想を踏まえた役割を明確にするとともに経営の効率化に取り組んできた。また、コロナ禍においては発熱患者等の受け入れを積極的に行うなど公立病院の役割を果たしてきた。

今般、令和5年5月より新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、感染症関連の臨時的診療報酬や補助金の縮小や廃止に加え、物価高騰や働き方改革への対応による経費増などにより、全国的に医療機関の経営悪化が懸念されている。

そのような中、令和5年度の取り組みとして、今後の新興感染症への対応に向け感染症受入病床の設置や感染管理認定看護師を配置し対応能力を強化した点、救急患者の積極的な受け入れにより受入件数が前年度、目標値を上回った点、病棟毎に専任の退院支援社会福祉士等を配置し多職種協同による円滑な退院支援を行える体制を整備した点などについては、急性期医療から回復期医療を担う病院として医療の質の向上を図ってきたものとして評価できる。

一方、経営状況に目を向けると、収益面では、入院では診療単価が目標を上回ったものの1日当たりの患者数が目標数値を下回り、収益目標から約1億5,500万円下回っている。外来では1日当たりの患者数が目標数値を下回ったものの診療単価が目標を上回り、収益目標を約3千700万円上回っている。結果として入院・外来収益は目標から約1億1,800万円下回っており、入院収益の改善が喫緊の課題だと認識している。

経営指標については前述のとおり医業収益の減収があったものの費用面の圧縮もあり、繰入金を除く修正医業収支比率は、全国同規模病院と同程度の85.2%となり、令和元年度より5年連続で80%以上を維持している。また、経常収支比率は県等による感染症対策関連補助金の縮小及び廃止等により臨時的収入が大幅に減少したものの目標数値である100.4%を達成しており健全経営への努力が伺える。

今回の評価では、塩竈市立病院新改革プランに基づく各種数値目標に対し、各委員から5段階評価で評価を行い、目標達成評価として示すとともに、各委員から寄せられた意見等を集約した。この評価報告が、塩竈市立病院が市民に愛され、今以上に地元の「信頼できる」自治体病院として欠くことのできない存在となるべく、今後の病院運営への一助となることを期待する。

以下に評価及び各委員からの意見等を集約した。

令和6年10月

塩竈市立病院事業調査審議会

会長 藤森研司

# 1. 患者数・診療単価、医業収益の概要

## (1) 患者数・診療単価等の概要

### ①入院の概要

病棟の全体患者数は延べ入院患者数が前年度より602人減の41,807人、1日当たりの患者数は前年度から2.0人減の114.2人となり、病床利用率は前年度から1.3ポイント減の70.9%となりました。

病棟別患者数については、一般病棟では、軽症の救急患者や在宅療養患者の急性増悪時の受入れなどを一般病棟ではなく地域包括ケア病棟で行った結果、新規入院件数が前年度よりも160件減となり、延べ入院患者数は前年度を1,968人下回る13,246人、1日当たりの入院患者数は36.2人となりました。

一方、地域包括ケア病棟全体では、新規入院件数が前年度よりも88件増となり、延べ入院患者数は前年度を1,366人上回る28,561人、1日当たりの入院患者数は78.0人となりました。

診療科別入院患者数では、前年度と比較し内科が745人減、外科が928人増、整形外科が682人減となりました。

月別入院患者数については、目標を上回る月はなく、1日当たり105人～122人で推移しています。

診療単価については、新型コロナウイルス感染症関連の臨時的診療報酬の縮小や廃止がありました。入退院支援加算1や夜間50対1急性期看護補助体制加算の取得などにより、前年度から185円増、院内目標を1,184円上回る36,519円となりました。

病棟では、患者並びに家族が抱える退院や退院後の様々な課題の解消に向け、病棟毎に専任の退院支援看護師又は社会福祉士を配置し、必要に応じ院内の多職種が協同で円滑な退院支援に努めました。さらに、入退院の頻度が高い一般病棟の準夜帯に看護補助者を配置するなど、夜間の安全安心な療養環境の確保を図りました。

### 病棟別の入院患者数

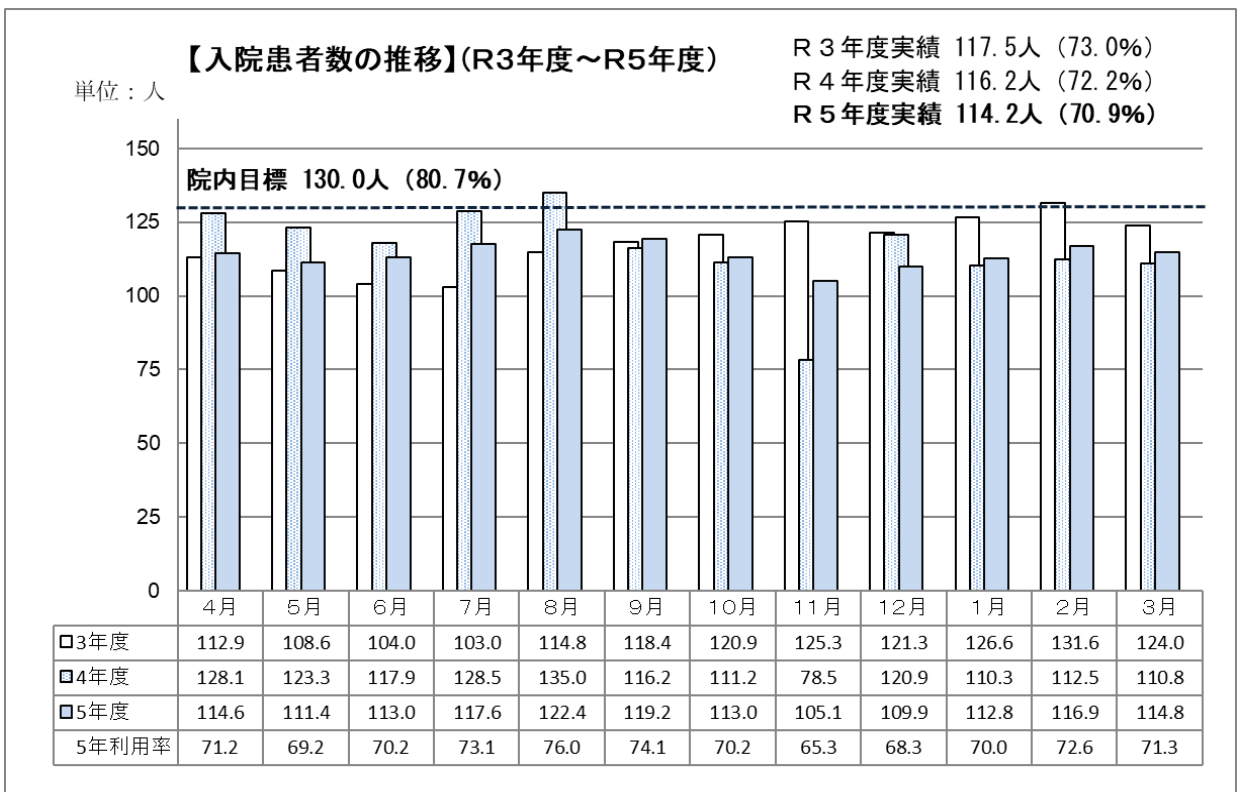
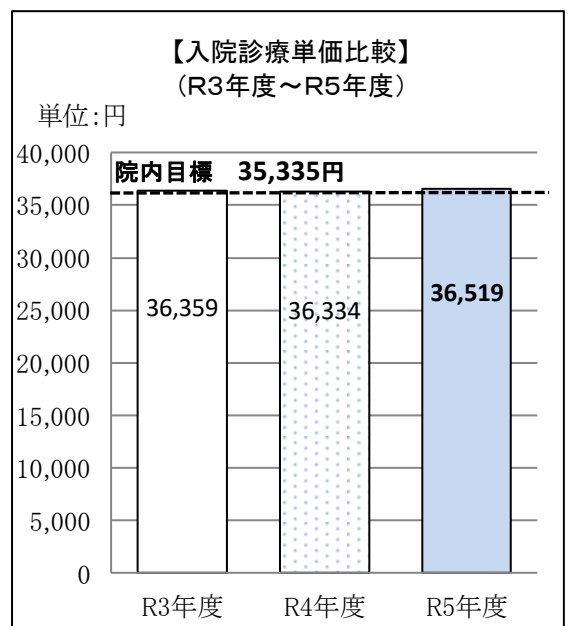
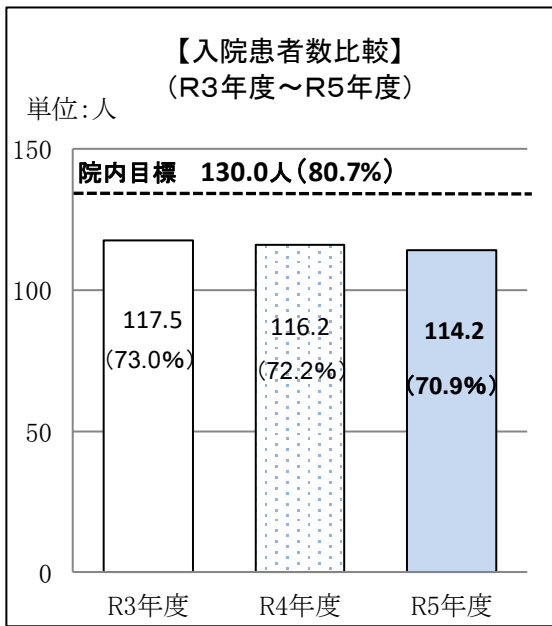
	延べ入院患者数(人)			1日当たりの入院患者数(人/日)		
	R5年度	R4年度	増減	R5年度	R4年度	増減
一般病棟(71床)	13,246	15,214	△1,968	36.2	41.7	△5.5
地域包括ケア病床①(52床)	16,101	15,504	597	43.9	42.5	1.4
地域包括ケア病床②(38床)	12,460	11,691	769	34.1	32.0	2.1
地域包括ケア病棟計	28,561	27,195	1,366	78.0	74.5	3.5
計(161床)	41,807	42,409	△602	114.2	116.2	△2.0

### 病棟別新規入院件数と平均在院日数

	新規入院件数(件)			平均在院日数(日)		
	R5年度	R4年度	増減	R5年度	R4年度	増減
一般病棟(71床)	912	1,072	△160	14.0	14.0	0.0
地域包括ケア病床①(52床)	596	503	93	21.0	23.0	△2.0
地域包括ケア病床②(38床)	331	336	△5	25.0	23.0	2.0
地域包括ケア病棟計	927	839	88	-	-	-
計(161床)	1,839	1,911	△72	-	-	-

### 診療科別の入院患者数

	延べ入院患者数(人)			1日当たりの入院患者数(人/日)		
	R5年度	R4年度	増 減	R5年度	R4年度	増 減
内 科	25,929	26,674	△ 745	70.8	73.0	△ 2.2
外 科	14,209	13,281	928	38.8	36.4	2.4
整 形 外 科	1,236	1,918	△ 682	3.4	5.3	△ 1.9
皮 膚 科	217	326	△ 109	0.6	0.9	△ 0.3
眼 科	216	210	6	0.6	0.6	0.0
計	41,807	42,409	△ 602	114.2	116.2	△ 2.0



## ②外来の概要等

外来については、22の診療科を維持し外来受診者や開業医からの紹介など、多様な疾患に対応できる体制を継続しました。

また、救急患者の受入れについては日中の救急車の積極的な受入れや、在宅療養患者や介護施設等からの緊急受入要請の迅速な対応に努めました。

一方、新型コロナウイルス感染症患者や発熱患者の受入れについては、継続して行っていましたでしたが、前年度に比べ減少し、最終的な延べ外来患者数は前年度より1,958人減の56,839人、1日当たりの患者数は8.1人減の233.9人となりました。

外来診療単価については、新型コロナウイルス感染症関連の臨時的診療報酬の縮小や廃止などにより、前年度から134円減となりましたが、院内目標を1,861円上回る12,661円となりました。

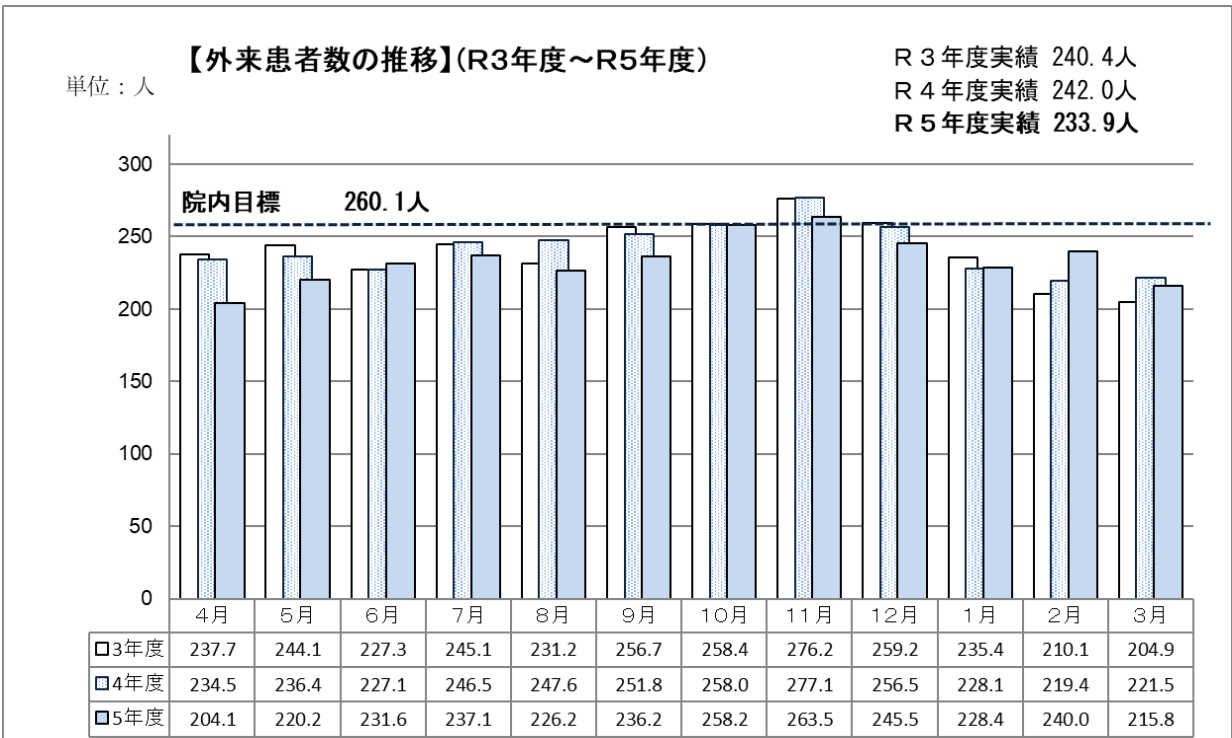
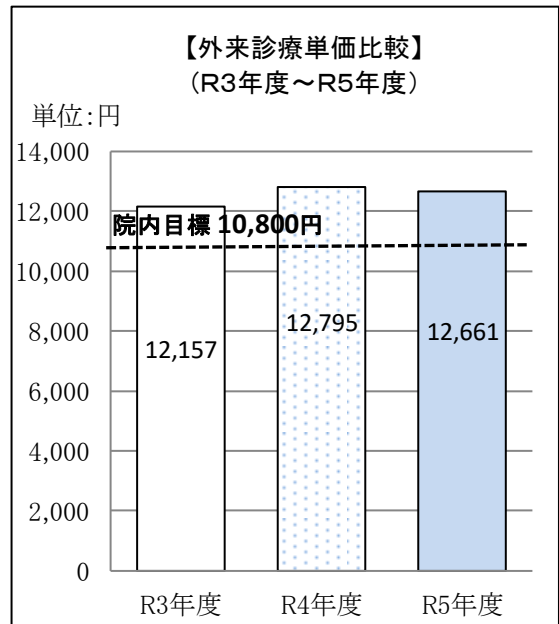
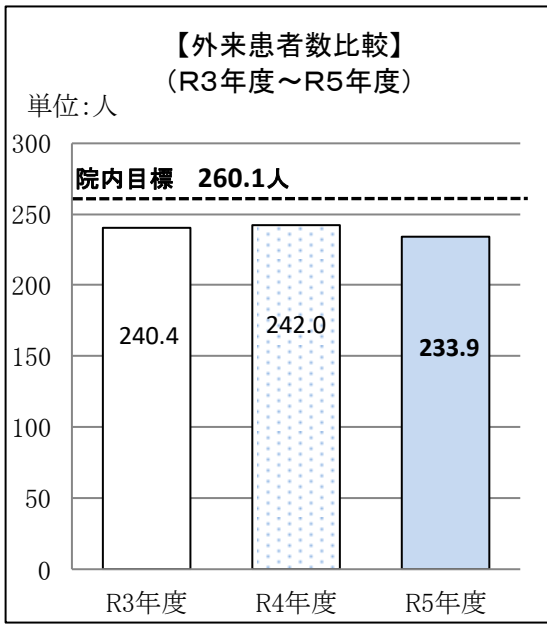
月別外来患者数は、11月は1日当たりの外来患者数目標を達成しましたが、その他の月は目標を上回ることが出来ませんでした。

病院全体としては、宮城県から新型コロナウイルス感染症患者入院受入医療機関の指定を受け、感染症受入病床3床と感染症対策の簡易陰圧室を病棟と外来棟に合わせて5つ整備するとともに、新たに感染管理認定看護師を配置するなど、今後の新興感染症への対応能力を強化しました。

### 診療科別の外来患者数

(単位：人)

	延べ外来患者数			1日当たりの外来患者数		
	R5年度	R4年度	増 減	R5年度	R4年度	増 減
内 科	17,424	17,058	366	71.7	70.3	1.4
消 化 器 内 科	4,463	4,801	△ 338	18.4	19.8	△ 1.4
呼 吸 器 内 科	1,283	1,112	171	5.3	4.6	0.7
循 環 器 内 科	4,505	4,587	△ 82	18.5	18.9	△ 0.4
神 経 内 科	943	1,093	△ 150	3.9	4.5	△ 0.6
外 科	7,166	8,022	△ 856	29.5	33.0	△ 3.5
整 形 外 科	5,527	5,984	△ 457	22.7	24.6	△ 1.9
皮 膚 科	3,633	4,356	△ 723	15.0	17.9	△ 2.9
小 児 科	3,946	3,800	146	16.2	15.6	0.6
泌 尿 器 科	1,996	1,995	1	8.2	8.2	0.0
耳 鼻 咽 喉 科	1,936	2,038	△ 102	8.0	8.4	△ 0.4
眼 科	3,430	3,504	△ 74	14.1	14.4	△ 0.3
婦 人 科	20	31	△ 11	0.1	0.1	0.0
リウマチ科	567	416	151	2.3	1.7	0.6
計	56,839	58,797	△ 1,958	233.9	242.0	△ 8.1



## 【取り組みへの評価】

### 1. 患者数・診療単価、医業収益の評価

#### (1) 患者数・診療単価等

目標項目	実績、目標差、達成率	目標達成 評価	主な意見
1. 入院患者数 130.0 人/日	114.2 人/日 △15.8 人/日 87.9%	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年連続で入院患者数は減少している。一般病棟の減少を抑制・増加させるため、新患獲得に向け外来・紹介・救急搬送別に入院率引き上げ目標を設定し取り組まれることを期待する。</li> <li>・患者数がどうしたら増えるのか検討されたい。</li> <li>・病院の努力が外部に伝わる手段を検討されたい。</li> <li>・一般病棟の積極的な活用を期待する。</li> <li>・地域包括ケア病棟にて、ベッドコントロールにより在院日数の最適化を図り、病床利用率を95%程度まで引き上げることを目指されたい。</li> <li>・仙台市内及び周辺の急性期病院からのポストアキュート患者増を図られたい。</li> <li>・一般病棟の利用率が低く、一方で地域包括ケア病棟の利用率は比較的良く、診療単価もほぼ同等である。今後は一般病床と地域包括ケア病床との再編を検討すべきと考える。</li> <li>・最終的には、3病棟を全て地域包括ケア病棟にすることが病床運用効率からは理想的、その場合は、総病床数を145床程度にし、病床利用率は95%程度を目指すべき。</li> <li>・コロナの院内感染による入院制限が影響したため、感染対策を強化する。また、高齢救急患者の適切な入院対応の徹底と転院依頼への速やかな対応を図る。</li> </ul>
2. 入院診療単価 35,335 円	36,519 円 1,184 円 103.4%	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病棟再編や加算取得等の戦略が効を奏している。</li> <li>・目標を達成し類似公立病院との比較でも上回っている。引き続きの取組に期待する。</li> <li>・目標に達しているが、一般病棟の診療単価が低い。患者数同様、病床再編が必要と考える。</li> <li>・コスト削減を心がけられたい。</li> </ul>



			<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域包括ケア病棟における各種加算について、人件費増を勘案し、積極的な取得を検討されたい。また、様々な初期加算の取得及び件数増に向け、看護部、地域連携の人員配置強化や入退院に関する運用ルール見直し等も実施されたい。</li> <li>・急性期病棟の診療単価を引き上げるため、地ケア病棟への速やかな転棟を進める。</li> </ul>
3. 外来患者数 260.1 人/日	233.9 人/日 △26.2 人/日 89.9%	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外来患者数が減少し懸念される。開業医や介護施設等からの紹介増加に向けた取組の継続を期待する。</li> <li>・集患対策として、外部へのアピールをもっと積極的に行ってもいいのではと考える。</li> <li>・登録医を増やす努力を行う。広報誌などの宣伝活動強化を検討されたい。</li> <li>・初診数と再診数を分けて把握し、初診患者の獲得増を目指すべきと考える。</li> <li>・健診、ドック等の二次検査対象患者を積極的に獲得されたい。</li> <li>・対応可能な専門外来の範囲拡大を検討されたい。</li> <li>・再診患者の受診間隔が延長しているため、適切な受診を勧奨する。大学医師による専門外来から、常勤医によるかかりつけ医機能への転換を図る。</li> </ul>
4. 外来診療単価 10,800 円	12,661 円 1,861 円 117.2%	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標を大きく達成し、類似公立病院との比較でも上回っている。引き続きの取組に期待する。</li> <li>・素晴らしいといえる。</li> <li>・外来における検査、画像診断、化学療法、医学管理等の件数(患者数)増加を図られたい。</li> <li>・一部の診療科でみられる投薬のみの外来を見直す。適切な検査を行う。</li> </ul>

※目標達成度評価

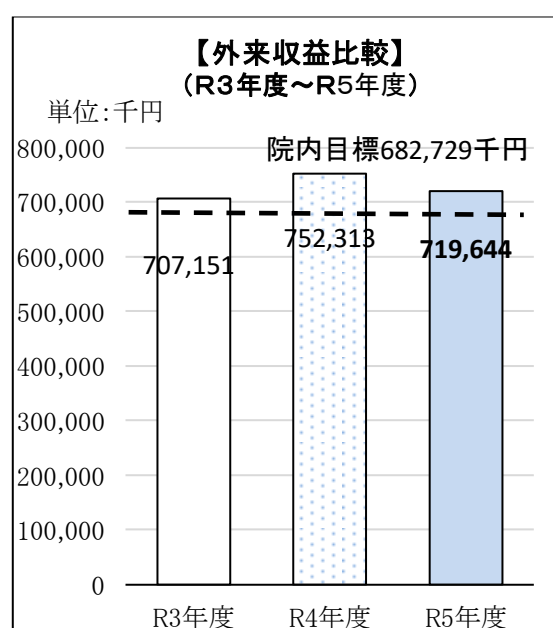
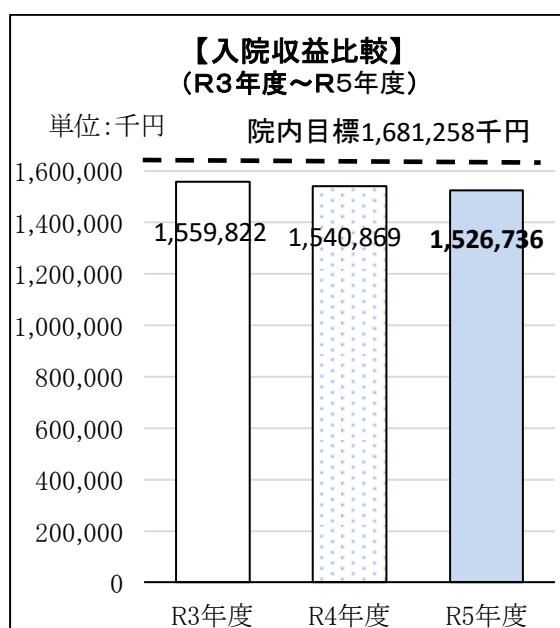
S = 十分評価できる    A = 評価できる    B = 普通である    C = やや評価できない    D = 評価できない

## (2) 医業収益目標の達成状況

入院収益では、診療単価は目標を上回りましたが、一日当たりの患者数が目標を下回ったため、収益目標を約1億5,452万円下回る約1億2,674万円となり、達成率は90.8%となりました。前年差では、約1,413万円の減となりました。

外来収益では、一日当たりの患者数は目標を下回りましたが、診療単価が目標を上回った結果、収益目標を約3,692万円上回る約7億1,964万円、達成率は105.4%となりました。前年差では新型コロナウイルス感染症関連の臨時的診療報酬の縮小及び廃止などの影響により約3,267万円の減となりました。

入院・外来収益合計では、院内目標より約1億1,761万円減の約22億4,638万円、達成率95.0%となり、前年差では約4,680万円の減となりました。



### 【入院】

(単位:千円)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
3年度実績	125,337	122,498	116,249	120,293	134,028	133,947	136,774	138,956	133,509	136,692	121,848	139,691	1,559,822
4年度実績	138,679	144,770	133,263	147,131	148,768	128,284	83,875	108,663	142,581	111,042	129,194	124,619	1,540,869
5年度目標	137,808	142,402	137,808	142,402	142,402	137,808	142,402	137,808	142,402	142,402	133,212	142,402	1,681,258
<b>5年度実績</b>	<b>126,093</b>	<b>130,807</b>	<b>121,966</b>	<b>134,579</b>	<b>131,282</b>	<b>131,796</b>	<b>130,631</b>	<b>115,064</b>	<b>125,570</b>	<b>122,285</b>	<b>125,413</b>	<b>131,250</b>	<b>1,526,736</b>
目標差	△ 11,715	△ 11,595	△ 15,842	△ 7,823	△ 11,120	△ 6,012	△ 11,771	△ 22,744	△ 16,832	△ 20,117	△ 7,799	△ 11,152	△ 154,522
達成率 (%)	91.5	91.9	88.5	94.5	92.2	95.6	91.7	83.5	88.2	85.9	94.1	92.2	90.8
前年差	△ 12,586	△ 13,963	△ 11,297	△ 12,552	△ 17,486	3,512	46,756	6,401	△ 17,011	11,243	△ 3,781	6,631	△ 14,133

(入院診療日数/365日…3年度、365日…4年度、366日…令和5年度)

## 【外来】

(単位：千円)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
3年度実績	62,582	54,488	61,825	57,435	62,031	61,472	58,381	56,914	61,911	59,051	48,141	62,920	707,151
4年度実績	59,184	58,997	60,486	59,872	70,604	64,421	60,004	71,095	71,443	59,635	58,619	57,953	752,313
5年度目標	56,192	56,192	61,811	56,192	61,811	56,192	58,999	56,192	56,192	53,382	53,382	56,192	682,729
<b>5年度実績</b>	<b>53,535</b>	<b>57,150</b>	<b>61,220</b>	<b>63,547</b>	<b>67,488</b>	<b>61,045</b>	<b>61,191</b>	<b>60,582</b>	<b>63,077</b>	<b>58,697</b>	<b>58,241</b>	<b>53,871</b>	<b>719,644</b>
目標差	△ 2,657	958	△ 591	7,355	5,677	4,853	2,192	4,390	6,885	5,315	4,859	△ 2,321	36,915
達成率(%)	95.3	101.7	99.0	113.1	109.2	108.6	103.7	107.8	112.3	110.0	109.1	95.9	105.4
前年差	△ 5,649	△ 1,847	734	3,675	△ 3,116	△ 3,376	1,187	△ 10,513	△ 8,366	△ 938	△ 378	△ 4,082	△ 32,669

(外来診療日数/242日…3年度、243日…4年度、243日…5年度)

## 【入院・外来合計】

(単位：千円)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
3年度実績	187,919	176,986	178,074	177,728	196,059	195,419	195,155	195,870	195,420	195,743	169,989	202,611	2,266,973
4年度実績	197,863	203,767	193,749	207,003	219,372	192,705	143,879	179,758	214,024	170,677	187,813	182,572	2,293,182
5年度目標	194,000	198,594	199,619	198,594	204,213	194,000	201,401	194,000	198,594	195,784	186,594	198,594	2,363,987
<b>5年度実績</b>	<b>179,628</b>	<b>187,957</b>	<b>183,186</b>	<b>198,126</b>	<b>198,770</b>	<b>192,841</b>	<b>191,822</b>	<b>175,646</b>	<b>188,647</b>	<b>180,982</b>	<b>183,654</b>	<b>185,121</b>	<b>2,246,380</b>
目標差	△ 14,372	△ 10,637	△ 16,433	△ 468	△ 5,443	△ 1,159	△ 9,579	△ 18,354	△ 9,947	△ 14,802	△ 2,940	△ 13,473	△ 117,607
達成率(%)	92.6	94.6	91.8	99.8	97.3	99.4	95.2	90.5	95.0	92.4	98.4	93.2	95.0
前年差	△ 18,235	△ 15,810	△ 10,563	△ 8,877	△ 20,602	136	47,943	△ 4,112	△ 25,377	10,305	△ 4,159	2,549	△ 46,802

## 【取り組みへの評価】

### (2) 医業収益目標の達成状況

目標項目	実績、目標差、達成率	目標達成評価	主な意見
5. 入院収益 1,681,258 千円	1,526,736 千円 △154,522 千円 90.8%	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年連続で入院収益は減少しており、患者獲得とともに、適切な病床管理を期待する。</li> <li>・入院患者数、入院診療単価ともに向上を目指す。</li> <li>・特に、一般病棟にて病床利用率の上昇が必要と考える。</li> <li>・全身麻酔手術件数、内視鏡治療数の増加を目指されたい。</li> <li>・効果的な入院料の設定と運用を検討されたい。</li> <li>・病床利用率が上がれば収益が増す、一人でも二人でも現状より増えればという意識を職員一丸となって持つことを期待する。</li> <li>・疾患別等で症例毎の入院収益を明らかにし、医療スタッフ等に示すことで、全職員の経営に対するモチベーションアップを目指されたい。</li> </ul>
6. 外来収益 682,729 千円	719,644 千円 36,915 千円 105.4%	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標を達成し類似公立病院との比較でも上回っている。引き続きの取組に期待する。</li> <li>・素晴らしいといえる。</li> <li>・外来患者数、外来診療単価ともに向上を目指す。</li> </ul>
7. 入院・外来 収益計 2,363,987 千円	2,246,380 千円 △117,607 千円 95.0%	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入院外来収益ともに向上を目指されたい。</li> <li>・患者数の増加にかかっていると考える。</li> <li>・医業収益の2/3を占める入院収益の改善が喫緊の課題。患者獲得、適切な病床管理や診療報酬算定に期待する。</li> <li>・ドックや検診から二次検診の受診者増加を目指されたい。</li> <li>・月別収益のばらつきが少なくなったことは評価できる。</li> </ul>

※目標達成度評価

S = 十分評価できる    A = 評価できる    B = 普通である    C = やや評価できない    D = 評価できない

## 2. 新改革プラン数値目標の達成状況及び取組状況

### (1) 地域医療構想を踏まえた役割の明確化

新改革プランで当院が果たすべき役割を①「急性期病棟の維持と積極的な救急患者の受入継続」、②「地域包括ケア病棟の運用による在宅復帰支援」、③「療養病棟による慢性期医療の提供(令和元年度病床機能転換により評価除外)」、④「在宅医療の充実」としています。

#### ①「急性期病棟の維持と積極的な救急患者の受入継続」に係る目標達成状況

「1. 救急患者受入件数」は、軽症から中等症患者の積極的な受け入れにより目標を223件上回り、目標達成率122.3%となりました。

「2. 手術件数」は、目標を189件上回り、目標達成率178.8%となりました。

「3. 全身麻酔件数」は、目標を29件下回り、目標達成率は80.7%となりました。

「4. 内視鏡検査件数」は、目標を270件下回り、目標達成率は90.4%となりました。

「5. 内視鏡治療件数」は、目標を33件下回り、目標達成率86.3%となりました。

「6. CT検査件数」「7. MRI検査件数」は、機器更新による稼働停止期間があり、「6. CT検査件数」は、目標を66件下回り、目標達成率98.0%、「7. MRI検査件数」は、目標を265件下回り、目標達成率82.3%となりました。

#### ②「地域包括ケア病棟の運用による在宅復帰支援」に係る目標達成状況

「8. 在宅復帰率」は、3階病棟では目標を5.1ポイント上回り、目標達成率106.4%、5階病棟では目標を0.6ポイント下回り、目標達成率99.3%となりました。

#### ④「在宅医療の充実」に係る目標達成状況

「9. 訪問診療件数」は、目標を20件上回り、目標達成率101.3%となり、「10. 訪問看護件数」は、目標を366件下回り、目標達成率85.9%、「11. 訪問リハビリ件数」は、目標を715件下回り、目標達成率76.2%となりました。

#### 【医療機能に係る数値目標の達成状況】

果たすべき役割	項目	R4年度	目標	R5年度	目標差	達成率(%)
救急患者の受入	1 救急患者受入件数(件/年)	963	1,000	1,223	223	122.3
急性期病棟の維持	2 手術件数(件/年)	405	240	429	189	178.8
	3 2のうち全身麻酔件数(件/年)	111	150	121	△29	80.7
	4 内視鏡検査件数(件/年)	2,575	2,800	2,530	△270	90.4
	5 内視鏡治療件数(件/年)	231	240	207	△33	86.3
	6 CT検査件数(件/年)	3,201	3,240	3,174	△66	98.0
	7 MRI検査件数(件/年)	1,213	1,500	1,235	△265	82.3
	在宅復帰支援	8 3階在宅復帰率(%)	85.5	80.0	85.1	5.1
5階在宅復帰率(%)		81.6	80.0	79.4	△0.6	99.3
在宅医療の充実	9 訪問診療件数(件/年)	1,612	1,600	1,620	20	101.3
	10 訪問看護件数(件/年)	2,268	2,600	2,234	△366	85.9
	11 訪問リハビリ件数(件/年)	2,460	3,000	2,285	△715	76.2

## 【取り組みへの評価】

### (1) 地域医療構想を踏まえた役割の明確化

#### ①急性期病棟の維持と積極的な救急患者の受入継続

目標項目	実績、目標差、達成率	目標達成評価	主な意見
1. 救急患者受入件数 1,000 件/年	1,223 件/年 223 件/年 122.3%	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・頑張っていると感じる。</li> <li>・目標を大きく上回り、努力がうかがえる。公立病院として、地域の期待に応える受け入れを引き続き期待。一方、効率的な人員配置や入院率の引き上げにも取り組まれない。</li> <li>・地域の救急搬送数の増加に対応できた。日中の軽症患者の受け入れを徹底する。</li> </ul>
2. 手術件数 240 件/年	429 件/年 189 件/年 178.8%	S	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標を大きく上回っているが、収益への貢献状況が気になるところである。</li> <li>・プランの手術件数 240 件は外科の目標であった。皮膚科手術、眼科白内障手術が始まり件数が増加した。経営強化プランでは目標を変更した。</li> </ul>
3. 2のうち全身麻酔件数 150 件/年	121 件/年 △29 件/年 80.7%	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手術件数が目標を大きく上回る一方、全身麻酔は大きく下回る状況。診療報酬を踏まえ、収益向上に資する手術件数の増加に期待する。</li> <li>・院内および院外からの紹介減が続いている。医師会との連携強化、市民へのアピールが不足しているため改善が必要と考える。</li> </ul>
4. 内視鏡検査件数 2,800 件/年	2,530 件/年 △270 件/年 90.4%	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間ドックなどからの二次検診への誘導を期待する。</li> <li>・先生方の評判も良くなっている。次の検査の案内を送付する等の取り組みは現在継続しているのか気がかりである。</li> <li>・診療単価の高い内視鏡検査は医療機関の競争が激しいが、件数が2年連続で減少しており懸念される。下部内視鏡でのポリペク増加などに期待する。</li> <li>・東北大からの派遣と常勤医2名で対応した。次年度から3名体制となっており、件数の増加が期待される。</li> </ul>
5. 内視鏡治療件数 240 件/年	207 件/年 △33 件/年 86.3%	B	4. 内視鏡検査件数と同意見にて省略

6. CT検査件数 3,240 件/年	3,174 件/年 △66 件/年 98.0%	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・科別に集計し、診療科の伸びしろ等を検討されたい。(7. MRI 検査件数も同様)</li> <li>・医療機器が新しく機能も優れているということで安心して受診できると感じる。(7. MRI 検査件数も同様)</li> <li>・他院からの紹介増などに取り組みたい。</li> <li>・午後枠に余裕があるため、午前枠は外来患者用、入院患者を午後枠にして、稼働率を上げる工夫をしている。</li> </ul>
7. MRI検査件数 1,500 件/年	1,235 件/年 △265 件/年 82.3%	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予約時から検査までの待機期間がどの程度あるのか気がかりである。</li> <li>・全診療科にオーダー数増加依頼をされることを提案する。</li> <li>・他院からの紹介増などに取り組みたい。</li> <li>・MRI 導入医療機関があり、院外からの依頼が減少した。機器更新のため 1 ヶ月以上の休止期間があった。</li> </ul>

## ②地域包括ケア病棟の運用による在宅復帰支援

目標項目	実績、目標差、達成率	目標達成評価	主な意見
8. 3階在宅復帰率 80.0%	85.1% 5.1 ポイント 106.4%	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅復帰率80%はボーダーラインといえる。サブアキュートの方の受入れの中で大変かと思うが、80%キープに取り組みたい。</li> <li>・在宅復帰率の基準値を下回らない取組の継続を期待する。</li> <li>・退院支援が強化されているので継続を。</li> </ul>
8. 5階在宅復帰率 80.0%	79.4% △0.6 ポイント 99.3%	B	8. 3 階在宅復帰率同意見のため省略

④在宅医療の充実

目標項目	実績、目標差、達成率	目標達成評価	主な意見
9. 訪問診療件数 1,600 件/年	1,620 件/年 20 件/年 101.3%	A	・ニーズがあるため、令和 6 年度、在宅専門の医師一名を採用したことは良い取り組みである。
10. 訪問看護件数 2,600 件/年	2,234 件/年 △366 件/年 85.9%	B	・件数減少についてニーズがないのか、手が回らないのか、どちらの要素が大きいのか気がかりである。(11. 訪問リハビリ件数も同様) ・対象患者 100 名を目標にしているが、80 名台で低迷している。死亡、施設入所等が多いため、新規患者の確保に努力する。
11. 訪問リハビリ件数 3,000 件/年	2,285 件/年 △715 件/年 76.2%	C	・2 年連続で減少し、訪問診療や訪問看護に比べ達成度が低い。PR の強化に取り組まれたい。 ・ニーズがあると考え。頑張りに期待する。 ・入院患者のリハビリニーズに対応するため、訪問リハビリを制限した結果であり、やむを得ない。

※目標達成度評価

S = 十分評価できる A = 評価できる B = 普通である C = やや評価できない D = 評価できない



## (2) 経営の効率化

### ①数値目標の達成状況

新改革プランで、経営努力として具体的な数値目標を設定し、増患対策並びに経費削減に向けて積極的に取り組むこととしています。そして、検証する指標として、「経営の効率化に係る各種数値目標」を設定しています。

「1. 病床利用率」は、目標を9.8ポイント下回り、目標達成率87.9%となりました。

「2. 1日当たりの入院患者数」は、目標を15.8人下回り、目標達成率87.9%となりました。

「3. 入院患者1人1日当たりの入院診療単価」は、目標を1,184円上回り、目標達成率103.4%となりました。

「4. 1日当たりの外来患者数」は、目標を26.2人下回り、目標達成率89.9%となりました。

「5. 外来患者1人1日当たりの外来診療単価」は、目標を1,861円上回り、目標達成率117.2%となりました。

「6. 紹介患者数」は、目標を261人上回り、目標達成率117.4%となりました。

「7. 人間ドック件数」は、目標を667件上回り、目標達成率127.8%となりました。

「8. 脳ドック件数」は、目標を93件上回り、目標達成率162.0%となりました。

「9. 健康診断件数」は、目標を438件下回り、目標達成率89.8%となりました。

【経営の効率化に係る各種数値目標の達成状況】

項目		R4年度	目標	R5年度	目標差	達成率(%)
収益確保	1 病床利用率(%)	72.2	80.7	70.9	△ 9.8	87.9
	2 1日当たりの入院患者数(人/日)	116.2	130.0	114.2	△ 15.8	87.9
	3 入院患者1人1日当たりの入院診療単価(円)	36,334	35,335	36,519	1,184	103.4
	4 1日当たりの外来患者数(人/日)	242.0	260.1	233.9	△ 26.2	89.9
	5 外来患者1人1日当たりの外来診療単価(円)	12,795	10,800	12,661	1,861	117.2
	6 紹介患者数(人/年)	1,718	1,500	1,761	261	117.4
	7 人間ドック件数(件/年)	3,071	2,400	3,067	667	127.8
	8 脳ドック件数(件/年)	216	150	243	93	162.0
	9 健康診断件数(件/年)	3,235	4,300	3,862	△ 438	89.8

## 【取り組みへの評価】

### (2) 経営の効率化

#### ①数値目標の達成状況

目標項目	実績、目標差、達成率	目標達成評価	主な意見
1. 病床利用率 80.7%	70.9% △9.8ポイント 87.9%	C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年5月にコロナが5類移行したが、2年連続で病床利用率が減少し懸念される。平均在院日数や診療報酬を考慮した適切な病床管理を期待する。</li> <li>・救急から入院への患者増を図られたい。</li> <li>・地域包括ケア病棟にてリハビリ等によりしっかり治療を行う。</li> <li>・ポリペクを一般病棟で行う等、効率的な病棟運用を検討されたい。</li> <li>・病床の再編成を検討する時期と考える。</li> <li>・同規模病院よりやや上回ってはいるものの、入院診療報酬を確保するには不十分。一方、現在運用中の病床数は161ではなく145床であり、実質的には78.7%の利用率となっている。</li> </ul>
2. 入院患者数 (再掲) 130.0人/日	114.2人/日 △15.8人/日 87.9%	B	再掲のため省略(P6参照)
3. 入院診療単価 (再掲) 35,335円	36,519円 1,184円 103.4%	B	再掲のため省略(P6～7参照)
4. 外来患者数 (再掲) 260.1人/日	233.9人/日 △26.2人/日 89.9%	B	再掲のため省略(P7参照)
5. 外来診療単価 (再掲) 10,800円	12,661円 1,861円 117.2%	A	再掲のため省略(P7参照)

6. 紹介患者数 1,500 人/年	1,761 人/年 261 人/年 117.4%	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年以降、目標を上回り増加傾向にある。引き続き、開業医や介護施設との関係を強化し紹介患者の増加に取り組みたい。</li> <li>・外来診療科(リウマチ科、腎臓内科、脳神経内科など)を増やしたことが実績につながっている。大学病院の出先外来としての役割が今後も期待される。</li> </ul>
7. 人間ドック件数 2,400 件/年	3,067 件/年 667 件/年 127.8%	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍でも高い目標達成度を維持し大いに評価できる。入院に比べ投入医療資源は少なく収益性が高いため、企業や国保加入者への更なるPR強化を期待する。</li> <li>・企業健診の増加による影響が大きい。これ以上増加させるためには、ドック健診体制を見直す必要がある。</li> </ul>
8. 脳ドック件数 150 件/年	243 件/年 93 件/年 162.0%	S	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍でも高い目標達成度を維持し大いに評価できる。入院に比べ投入医療資源は少なく収益性が高いため、企業や国保加入者への更なるPR強化を期待する。</li> <li>・脳神経内科の外来開設の影響が大きい。</li> </ul>
9. 健康診断件数 4,300 件/年	3,862 件/年 △438 件/年 89.8%	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・減少した理由を分析し見直しを期待する。</li> <li>・企業などへのPR強化を期待。</li> <li>・人間ドックへの切り替えがあるための結果であり理解できる。</li> </ul>

※目標達成度評価

S = 十分評価できる    A = 評価できる    B = 普通である    C = やや評価できない    D = 評価できない

## ②診療科別患者数・診療単価・医業収益目標の達成状況

入院については、3階地域包括ケア病棟は、1日当たりの患者数目標47.0人に対し3.1人下回る43.9人となり、診療単価では目標32,996円に対し34,544円と目標を1,548円上回りましたが、収益は目標を約1,139万円下回る約5億5,620万円となりました。

4階一般病棟は、1日当たりの患者数目標49.0人に対し12.8人下回る36.2人となり、診療単価では目標39,041円に対し39,836円と目標を795円上回りましたが、収益は目標を約1億7,249万円下回る約5億2,767万円となりました。

5階地域包括ケア病棟は、1日当たりの患者数目標34.0人に対し34.1人となり目標を0.1人上回り、診療単価でも33,229円に対し35,543円と目標を2,314円上回るなど、収益は目標を約2,936万円上回る約4億4,287万円となりました。

病棟全体としては、1日当たりの患者数130人の院内目標に対し15.8人及ばず114.2人、達成率は87.9%となり、診療単価では35,335円の院内目標に対し1,184円上回り、36,519円、達成率103.4%となりましたが、結果として医業収益の院内目標である16億8,126万円に対し約1億5,452万円下回る約15億2,674万円、達成率90.8%となりました。

### 【診療科別患者数・診療単価・医業収益目標の達成状況】

#### 【入院】

4/1~3/31 (診療日数 366日)	一日当たり患者数比較 (単位:人)				診療単価比較 (単位:円)				収益比較 (単位:千円)							
	目標	実績	差	達成率 (%)	目標	実績	差	達成率 (%)	目標		実績		差			
									一日	累計	一日	累計	一日	累計	達成率 (%)	
3F 包括病棟	内科	37.0	30.4	△6.6	82.2	32,800	33,109	309	100.9	1,214	444,178	1,009	369,368	△205	△74,810	83.2
	外科	5.0	11.5	6.5	230.0	32,800	37,449	4,649	114.2	164	60,024	432	158,073	268	98,049	263.4
	整形外科	4.0	1.4	△2.6	35.0	32,800	34,046	1,246	103.8	131	48,019	48	17,534	△83	△30,485	36.5
	皮膚科	1.0	0.6	△0.4	60.0	42,000	53,701	11,701	127.9	42	15,372	31	11,224	△11	△4,148	73.0
	小計	47.0	43.9	△3.1	93.4	32,996	34,544	1,548	104.7	1,551	567,593	1,520	556,199	△31	△11,394	98.0
4F 一般病棟	内科	22.0	17.9	△4.1	81.4	33,000	37,087	4,087	112.4	726	265,716	664	242,997	△62	△22,719	91.4
	外科	25.0	17.8	△7.2	71.2	45,000	42,266	△2,734	93.9	1,125	411,750	752	275,279	△373	△136,471	66.9
	整形外科	2.0	0.5	△1.5	25.0	31,000	39,460	8,460	127.3	62	22,692	19	6,827	△43	△15,865	30.1
	皮膚科	—	0.0	0.0	—	—	320,836	—	—	—	—	7	2,567	7	2,567	—
	小計	49.0	36.2	△12.8	73.9	39,041	39,836	795	102.0	1,913	700,158	1,442	527,670	△471	△172,488	75.4
5F 包括病棟	内科	26.0	22.5	△3.5	86.5	32,800	34,896	2,096	106.4	852	312,125	784	286,878	△68	△25,247	91.9
	外科	5.0	9.5	4.5	190.0	32,800	35,436	2,636	108.0	164	60,024	336	123,140	172	63,116	205.2
	整形外科	2.5	1.5	△1.0	60.0	32,800	35,387	2,587	107.9	82	30,012	53	19,392	△29	△10,620	64.6
	眼科	0.5	0.6	0.1	120.0	62,000	62,299	299	100.5	31	11,346	37	13,457	6	2,111	118.6
	小計	34.0	34.1	0.1	100.3	33,229	35,543	2,314	107.0	1,129	413,507	1,210	442,867	81	29,360	107.1
総計	130.0	114.2	△15.8	87.9	35,335	36,519	1,184	103.4	4,593	1,681,258	4,172	1,526,736	△421	△154,522	90.8	

外来については、1日当たりの患者数260.1人の院内目標に対し26.2人及ばず233.9人、達成率は89.9%となりましたが、診療単価では、新型コロナウイルス感染症関連の臨時的診療報酬の縮小及び廃止があったものの、全ての常勤診療科において院内目標を上回るとともに非常勤診療科においても全体で院内目標を上回るなど、10,800円の院内目標に対し1,861円上回り、12,661円、達成率117.2%となりました。結果として医業収益の院内目標である6億8,273万円に対し約3,692万円上回る約7億1,964万円、達成率105.4%となりました。

## 【外来】

4/1~3/31 (診療日数 243日)	一日当たり患者数比較 (単位:人)				診療単価比較 (単位:円)				収益比較 (単位:千円)							
	目標	実績	差	達成率 (%)	目標	実績	差	達成率 (%)	目標		実績		差		達成率 (%)	
									一日	累計	一日	累計	一日	累計		
常勤 医師 診療科	内 科	140.0	117.8	△22.2	84.1	10,100	12,945	2,845	128.2	1,637	397,802	1,525	370,459	△112	△27,343	93.1
	外 科	30.0	29.5	△0.5	98.3	15,700	21,078	5,378	134.3	471	114,453	622	151,049	151	36,596	132.0
	整形外科	22.0	22.7	0.7	103.2	6,000	7,246	1,246	120.8	132	32,076	165	40,049	33	7,973	124.9
	皮膚科	16.0	15.0	△1.0	93.8	8,380	13,557	5,177	161.8	134	32,581	203	49,251	69	16,670	151.2
	小 計	208.0	185.0	△23.0	88.9	10,342	13,590	3,248	131.4	2,374	576,912	2,515	610,808	141	33,896	105.9
非常勤 医師 診療科	小児科	13.0	16.2	3.2	124.6	4,500	6,302	1,802	140.0	59	14,216	102	24,868	43	10,652	174.9
	泌尿器科	9.0	8.2	△0.8	91.1	5,500	5,277	△223	95.9	49	12,029	43	10,533	△6	△1,496	87.6
	耳鼻咽喉科	9.0	8.0	△1.0	88.9	6,200	5,745	△455	92.7	56	13,559	46	11,122	△10	△2,437	82.0
	眼 科	16.0	14.1	△1.9	88.1	6,000	5,944	△56	99.1	96	23,328	84	20,388	△12	△2,940	87.4
	婦人科	0.1	0.1	0.0	100.0	3,300	2,842	△459	86.1	1	80	0	57	△1	△23	71.0
	リウマチ科	5.0	2.3	△2.7	46.0	7,000	15,516	8,516	221.7	35	8,505	36	8,797	1	292	103.4
	小 計	52.1	48.9	△3.2	93.9	5,665	6,370	705	112.4	296	71,717	311	75,765	15	4,048	105.6
在宅	訪問看護等									150	34,100	136	33,071	△14	△1,029	97.0
総 計		260.1	233.9	△26.2	89.9	10,800	12,661	1,861	117.2	2,820	682,729	2,962	719,644	142	36,915	105.4

※訪問看護等は、訪問看護、訪問リハビリテーションを含む介護保険分野の総計です。

③経営の効率化に向けた具体的な取組状況（◎は令和5年度新規の取り組みです）

(i) 収入確保に係るもの

目的	項目	取組み内容	備考
入院患者の集患力向上	積極的な救急患者の受入	救急隊との症例検討会の開催（令和5年11月28日開催）	
		救急隊と病院事務の打合せ実施（～令和4年度）	
	他院からの転入院の受入強化	地域医療連携室による高度急性期、急性期病院への訪問（平成28年度～）	
		ホームページにおける地域包括ケア病棟の空床情報を発信（平成28年度～）	
	紹介患者の受け入れ強化	地域の医療機関を対象とした「地域医療連携の集い」の開催（平成28年度～令和元年度・令和5年度再開40名）	◎
		地域医療連携センターを立ち上げ、入院から退院までの一貫した医療サービスの提供（令和3年度～）	
		訪問看護ステーションへのリーフレット等の送付（令和元年度）	
		地域医療連携室による地域の開業医への訪問（平成29年度～令和元年度）	
		地域医療連携室による地域の介護施設等への訪問（平成28年度～令和元年度）	
		開業医アンケートの実施ならびにアンケートの意見を踏まえた紹介関連書類の簡略化（平成28年度）	
		介護施設従事者を対象とした地域連携サロンの開催（令和元年度）	
	患者送迎サービスの拡充	ショートステイ利用者への送迎サービスの実施（令和元年8月まで）	
	診療内容の拡大	眼科白内障手術の実施（令和3年4月～）	
		皮膚科手術を含む入院診療の開始（令和3年度～）	
	病床機能の見直し	急性期病棟を2病棟から1病棟に集約（令和元年10月～）	
		地域包括ケア病棟を1病棟（42床）から2病棟（90床）へ拡大（令和元年10月～）	
		療養病棟の廃止（令和元年9月）	
	レスパイト入院の開始	地域包括ケア病棟を中心とした、レスパイト入院の受入れを開始（令和元年度～・令和5年度受入れ患者数207名）	
		レスパイト入院を対象とした、送迎サービスの開始（令和元年度～・令和5年度延べ利用回数318回）	
	チーム医療による地域包括ケアの推進	ACPを尊重した退院支援体制の推進	◎
		薬剤師による入院前の休薬説明等の指導開始	◎
		入院直後からの退院支援担当者等による退院に向けた面談実施と退院支援スクリーニングの強化	◎
		医師と多職種による早期カンファレンスの定期実施	◎
		看護師とリハビリスタッフによる退院前自宅訪問体制の強化と退院後に望む生活を見越したチームリハビリの実施	◎
		家族や介護者向け薬剤管理説明書の作成と配布	◎

目的	項目	取り組み内容	備考
外来患者の 集患力向上	診療科目の拡大	腎臓内科、脳神経内科（物忘れ外来）、リウマチ科の開設（令和4年度～）	
	診療日の拡大	整形外科の診療日の拡大（令和3年度～）	
		皮膚科の診療日の拡大（平成30年度～）	
	新患受入れ体制強化	内科医を1名招聘し、総合診療室での診療体制を通年で2診体制に強化（令和3年度～）	
		総合診療室での診療体制を内科医と外科医の2診体制にすることで、新患受入れ体制を強化（令和3年度）	
	患者サービスの向上	電子処方せんシステムの導入と運用開始	◎
		マイナ保険証利用者の増加を見据えた顔認証端末の増設（令和5年度利用率12.3%）	◎
		オンライン資格認証システムによるマイナンバーカードを利用した円滑な受付体制を開始（令和4年度～）	
		クレジット支払を導入し、患者満足度調査での要望に対応（令和4年7月～）	
		外来再来機を廃止し、対面受付による患者に寄り添った細やかな受付を実施（令和3年12月～）	
	患者満足度の向上	在宅サービス利用者を対象とした患者満足度調査の実施（令和2年度～・令和5年度回答数54名）	
		外来患者を対象とした患者満足度調査の実施（平成29年度～・令和5年度回答数154名）	
		職員による外来混雑時の駐車場誘導の実施（平成29年度～）	
		看護部とボランティア「かもめの会（外来患者補助の活動）」との情報共有の強化（平成30年度）	
		看護部による苦情等の発生時の早期対応の強化（平成30年度）	
	外来待ち時間の短縮	乳腺外来及び待ち時間の長い診療科に新患枠を設定し、診察待ち時間を短縮（令和4年度～）	
		診療科毎の採血を廃止し、処置室での採血中央化の開始（令和2年度）	
		外来採血の開始時間の8時30分から8時への繰り上げ（平成28年度～）	
	要再検査の人間ドック等受診者への外来受診の勧奨	健診結果表の改版（令和3年度）	
		カルテの電子化により、健診・人間ドック情報を院内共有（令和4年1月～）	
外来フォローの強化	健診結果表送付時における精密検査の受診方法の案内の同封（令和28年度～）		
	胃・大腸カメラ等の検査実施時期の案内送付（令和28年度～）		
人間ドック、健康診断の拡充	CT・MRI、腹部エコーの検査実施時期の案内送付（平成29年度～）		
	CT機器を更新し画質向上による診断サポートの強化と被ばく量低減による受診者の安全性向上を図った（令和4年度）		
	身体に触れる検査では同性技師による対応に努め、受診者が安心できる環境の整備（令和4年度）		
	健康診断満足度調査の実施（令和3年度～・令和4年度回答数149名）		
		人間ドックや健康診断の1日当たりの受入れ枠の柔軟化（令和元年度～）	

目的	項目	取り組み内容	備考
外来患者の集患力向上	脳ドック受診勧奨	「Newしおナビバス」への脳ドック勧奨のポスター掲示（平成30年度）	
		脳ドックのWeb予約の開始（令和元年度～）	
	積極的な情報提供	本市市制80周年記念事業の一環として市民を対象とした骨密度チャレンジの実施（令和3年度・参加者76名）	
		在宅医療・在宅支援リーフレットの作成及び関係機関・医療機関・介護福祉機関への配布（令和3年度）	
		「広報しおがま」に「塩竈市立病院からのお知らせ」を折り込み全戸配布（平成28年度）	
	積極的な情報提供	院外広報誌「Kamado」の配布（1回）	◎
		ホームページ等の案内地図の刷新（平成28年度）	
		スマートフォン対応のホームページの拡充（平成29年度）	
		外来担当表など院内掲示物の刷新（平成28年度～）	
		スマートフォンアプリLINEを活用した情報発信（令和2年7月～）	
		院外広報誌「みんなのわ」の配布（～令和4年度）	
		栄養科広報誌「栄養だより」の配布（6回）	
		ホームページの全面リニューアル並びに視覚障がい者用読み上げシステムへの対応（平成28年度）	
	当院のフェイスブックの開設（平成28年度）		
その他	入院収益の向上	一般病棟の準夜時間帯での看護補助者の配置と夜間急性期看護補助体制加算の取得	◎
		一般病棟の看護職員夜間配置加算の取得（令和3年度～）	
		地域包括ケア病棟の積極的な運用（令和元年度～）	
		看護補助者を増員し看護補助者配置加算の取得病棟を1病棟から2病棟へ拡大（令和元年度～）	
		看護師の配置を見直し、地域包括ケア病棟での看護職員配置加算を取得（令和元年度～）	

(ii) 経費削減に係るもの

目的	項目	取り組み内容	備考
経費削減	給与費の削減	労務関連等各種申請用紙の院内共有フォルダからのダウンロード化による労務事務の負担軽減（令和5年度～）	◎
		勤怠管理システムを導入し、事務負担の軽減による時間外手当の抑制とペーパーレス化の推進（令和4年度～）	
		勤務帯毎にユニフォーム色の区別することにより、時間外勤務発生の抑制（令和3年度～）	
	薬品費の削減	病棟薬剤師配置及び配薬カート等購入に伴う、在庫管理等の徹底（令和2年度～）	
後発薬品の積極的な導入（令和5年度導入率95.9%）			



目的	項目	取り組み内容	備考
経費削減	薬品費の削減	医薬品ベンチマークを活用した薬品購入価格の引き下げ交渉の積極的な実施	
		使用期限の近づいている薬品の早期周知による期限切れによる廃棄の防止	
	診療材料費等の削減	MRI検査機器更新によるヘリウムガスの削減（令和5年度）	◎
		物流管理業務の委託事業者の見直し（平成28年度）	
		「診療材料等検討委員会」による診療材料切替による診療材料費の削減	
	光熱水費の削減	院内全体での節電等の推進	◎
	委託費の削減	カルテの電子化により軽減された医事業務委託を見直し、余剰人員を外来ヘクラークとして配置（令和3年度～）	
		検体検査委託業務のFMS（院内受託）方式から自主購入への変更（平成30年度～）	
		電力自由化に伴う、電気料金の契約内容の見直しによる削減（平成30年度～）	
		読影費用の削減に向けたCT・MRI画像の読影委託業者の一元化（平成30年度～）	

(iii) その他に係るもの

目的	項目	取り組み内容	備考
経営の安定化	療養環境の整備	CT・MRI・マンモグラフィシステム等放射線関連検査機器の更新と検査室の改修	◎
		3階病棟浴室をストレッチャー、車椅子が入室できる環境に改修（令和4年度）	
		地域包括ケア病棟2病棟化に伴う、トイレ等の改修（令和元年度）	
		4階病棟及び5階病棟の休憩室の整備（平成29年度）	
		外来エレベーター及び病棟エレベーターの改修及び新設（平成29年度）	
	地域連携の強化	MMWINでの医療情報提供項目の拡大（令和3年度）	
		塩釜地区7病院長会議の開催（平成30年度まで）	
	行政との連携強化	能登半島地震復興支援への看護師派遣（1名）	◎
		地域包括支援センターへのリーフレットの送付（令和2年度）	
		長寿社会課へのリーフレットの送付（令和2年度）	
地域連携室による長寿社会課への訪問（令和元年度）			
		地域連携室による地域包括支援センターへの訪問（令和元年度）	

目的	項目	取り組み内容	備考
経営の安定化	健康増進事業への参画	地域ケア個別会議への理学療法士の派遣（1回）	◎
		「認知症初期集中支援事業」への医師及び看護師の派遣（会議出席3回、自宅訪問3回）	
		健康づくりサークルの代表者向けのリーダー研修会の実施（平成30年度）	
		市内の公民館等にて「健康づくりサークルサポート事業」の開催（～令和元年度）	
	市民向け講座の実施	市内の小学6年生を対象とした「いのちの授業」の開催（平成30年度）	
		市民講座「公開セミナー」の開催（令和元年度まで）	
	医師・看護師の確保	宿日直許可を変更して医師派遣元の医療機関が派遣しやすい環境の整備（令和4年度）	
		看護職処遇改善評価料を一部活用し、医療従事者を対象にした手当の支給（令和4年度～）	
		臨床研修医受け入れを2病院に拡大（令和3年度）	
		会計年度任用職員制度の運用開始（令和2年度～）	
		会計年度任用職員制度導入に伴う、短時間勤務職員の待遇改善に向けた雇用条件の整備（令和元年度）	
		内科（腎臓内科）、内科（消化器内科）常勤医の招聘（令和4年4月～）	
		小児科常勤医の招聘（令和3年10月～4年3月まで）	
		内科常勤医の招聘（令和3年4月～）	
		皮膚科常勤医の招聘（平成30年10月～）	
		インターネット就職募集サイトでの看護師募集（令和3年度～）	
		就職ガイダンス等への出展と看護師募集のパンフレットの作成（平成28年度）	
		ワークライフバランスの向上	看護師、看護補助者向けのワークライフバランス向上のための職場づくりアンケート実施（回答率93.2%）
	看護師等の休憩時間の明確化や働き続けられる職場づくりの推進		◎
	勤怠システムを導入し、所属長が所属職員の勤務状況を把握して業務改善を図る環境の整備（令和4年度）		
	勤怠システムを導入し、所属長が所属職員の休暇取得状況を把握して休暇取得を促進を図る環境の整備（令和4年度）		
	男性職員の育児休業の取得（令和4年度～・令和5年度取得者3名）		
	女性医師の産休・育休後の職場復帰の実現（令和2年度）		
女性医師の産休・育休後の職場復帰後の子育て応援のための職場環境の整備（令和元年度）			
女性医師の産休・育休取得のための職場環境の整備（平成30年度）			
短時間勤務を希望する看護師（非常勤）の採用の拡大（平成30年度）			

目的	項目	取り組み内容	備考
経営の安定化	職員の資質の向上	認定看護師認定資格取得の支援（感染管理） （令和3年度・令和5年度資格取得者1名）	◎
		特定行為受講の支援（点滴・栄養） （令和4年度・令和5年度資格取得者1名）	◎
		職員の資格等取得費助成金制度の制定 （令和5年度利用者3名）	◎
		認定看護師認定資格取得の支援（摂食・嚥下障害） （令和3年度）	
		看護師のキャリア開発のための新クリニカルラダーの実施と評価の導入（平成30年度）	
		管理職や中堅看護師向けのマネジメントラダーの導入 （平成30年度）	
		看護師や看護補助者を対象とした院内研修の充実とe-learningの導入（平成30年度）	
		看護補助者への研修と個別面談による定着の確認 （平成30年度）	
		看護研究の推進と研究発表の場の拡大（平成30年度）	
		多職種連携による情報共有	医療情報システム整備更新に伴う、院内で共有可能な検査項目の拡大（令和4年1月～）
	医療情報システム整備更新に伴い、在宅医療スタッフと院内のリアルタイム情報共有（令和4年1月～）		
	職種を超えた柔軟な業務分担の見直しによる業務の効率化の推進（令和元年度）		
	多職種連携による情報の共有化と重複業務の整理に伴う医療安全の向上と業務の効率化（令和元年度）		
	病棟薬剤師配置の拡大による看護師の業務負担の軽減（令和元年度）		
	院内での情報共有	中堅職員を中心に構成された「タスクフォース会議」の実施	
		全職員を対象とした経営改善に向けた説明会の開催 （平成30年度）	
		経営改善に向けた迅速な意思決定を行うための「経営推進会議」の開催（平成29年度）	
		「経営健全化会議」の開催（12回開催） （平成20年7月～）	
		医事課から診療報酬関係の情報を発信する「医事通信」の発刊（12回）	
		薬品についての「ドラッグインフォメーション」を医療情報システムを活用して配布（令和4年度～）	
		薬品についての情報を発信する「メディカルニュース」の配布（令和3年度まで）	

### 3. 令和5年度決算見込みの概要

#### (1) 令和5年度決算見込みの概要

今年度は、新型コロナウイルス感染症の第5類移行に伴い、県等による感染症対策関連補助金の縮小及び廃止の影響等に伴う臨時的収入の減少により、全国的に経営状況が悪化する中で、当院では着実な病院運営に取り組み、5年連続で経常損益及び純損益ともに黒字となる決算見込みとなりました。

医業収益については、入院外来収益計が前年度を約4,680万円下回ったことにより、前年度より約5,779万円減の約25億9,258万円となりました。

医業費用については、ヘリウムガス補充不用のMRIへの入れ替えによる医療ガス購入費の減や国による電気・ガス料金の負担軽減措置に伴う光熱水費の減などにより、医業費用は前年度から約2,847万円減の約28億1,137万円となりました。

医業外収益においては、新型コロナ感染症対策関連補助金の縮小及び廃止となったことにより前年度より約1億3,921万円減の約3億4,289万円となりました。

医業外費用は建設改良費に係る消費税雑損等の増により前年度より約2,720万円増の約1億1,142万円となりました。

経常損益としては、前年度から約1億9,573万円減の約1,269万円の利益となり、当年度純損益としては約1億9,435万円減の約649万円の利益となりました。

また、資金不足額についても不足額は発生せず、新たな不良債務は生じておりません。

#### 【令和5年度決算見込み】

(単位：千円)

項目		年度	R4年度 決算(税抜)	R5年度 決算見込(税抜)	R4年度 との増減額	備考
	医業収益		2,650,366	2,592,577	△ 57,789	
	医業費用		2,839,835	2,811,367	△ 28,468	
	医業損益		△ 189,469	△ 218,790	△ 29,321	
	医業外収益		482,108	342,894	△ 139,214	
	医業外費用		84,220	111,417	27,197	
	経常損益		208,419	12,687	△ 195,732	
	特別利益		252	250	△ 2	
	特別損失		7,839	6,451	△ 1,388	
	当年度純損益		200,832	6,486	△ 194,346	
	資金不足額		△ 311,670	△ 311,724	△ 54	

※「資金不足額」は△(マイナス)なので発生していません。

## (2) 収益的収支の概要

医業収益では、新型コロナウイルス感染症関連の臨時的診療報酬の縮小及び廃止と発熱患者等の減少により、前年差では入院収益は約1,413万円の減、外来収益は約3,267万円の減となりました。その他の医業収益では、新型コロナウイルス感染症関連患者の減少により室料差額収益及び予防接種収益が約368万円の減となりました。結果として医業収益は前年度よりも約5,779万円の減となりました。

医業費用では、看護師や理学療法士等の採用により職員数は増加しましたが、業務改善により時間外手当が約1,242万円圧縮され、給与費は前年度並となりました。材料費では、ヘリウムガス補充不用のMRIに入れ替えたことにより医療用ガス購入費は減少したものの、医療用材料や給食材料の全国的な物価高騰に伴う単価上昇や、前年度まで委託費としていた検査関連費用において、一部薬品購入費への支出科目の変更に伴う薬品費の増加により、前年度よりも約1,467万円増加しました。経費では、前述の検査関連委託費が約3,540万円の減、国による電気・ガス料金の負担軽減措置により光熱水費が約1,178万円の減となり、経費としては約3,902万円の減となりました。結果として医業費用は、前年度より約2,847万円減の約28億1,137万円となりました。

医業外収益では、県のコロナ感染症対策事業医療提供体制整備補助金などのコロナ関連補助金の縮小及び廃止により約1億3,921万円減となる約3億4,289万円となりました。

医業外費用では、高額医療機器の購入に伴う消費税負担に係る雑損失が約2,710万円増となり、医業外費用全体として前年度から約2,720万円増の約1億1,142万円となりました。

この結果、経常損益は約1,269万円の利益となり、これに特別利益、特別損失を合わせた当年度の純損益では、約649万円の利益となりました。

経営指標に係る各数値では、経常収支比率は100.4%と、前年度より6.7ポイント減少したものの、健全経営の水準とされる100%を上回っています。医業収支比率は、92.2%となり1.1ポイント減少しました。職員給与費対医業収益比率については、55.0%となり1.5ポイント増加しました。

【収益的収支の決算見込み概要】

(単位：千円)

年度		R4年度 決算(税抜)	R5年度 決算見込(税抜)	R4年度 との増減額	備考
項目					
	医業収益	2,650,366	2,592,577	△ 57,789	
	入院収益	1,540,869	1,526,736	△ 14,133	
	外来収益	752,313	719,644	△ 32,669	
	その他医業収益	357,184	346,197	△ 10,987	
	医業費用	2,839,835	2,811,367	△ 28,468	
	給与費	1,871,810	1,872,997	1,187	
	給与等(※)	1,418,210	1,426,929	8,719	
	児童手当	7,100	7,350	250	
	報酬	332,313	328,605	△ 3,708	
	退職負担金	114,187	110,113	△ 4,074	
	材料費	342,721	357,388	14,667	
	経費	477,345	438,328	△ 39,017	
	減価償却費	141,474	133,687	△ 7,787	
	資産減耗費	1,148	5,682	4,534	
	研究研修費	5,337	3,285	△ 2,052	
	医業損益	△ 189,469	△ 218,790	△ 29,321	
	医業外収益	482,108	342,894	△ 139,214	
	他会計負担金	146,207	131,204	△ 15,003	
	他会計補助金	68,472	68,542	70	
	患者外給食収益	652	705	53	
	その他医業外収益	16,485	17,105	620	
	県補助金	164,749	12,941	△ 151,808	
	長期前受金戻入	85,543	112,397	26,854	
	国庫補助金	0	0	0	
	医業外費用	84,220	111,417	27,197	
	支払利息等	1,248	1,271	23	
	患者外給食材料費	1,020	1,099	79	
	雑損失	81,952	109,047	27,095	
	経常損益	208,419	12,687	△ 195,732	
	特別利益	252	250	△ 2	
	過年度損益修正益	252	250	△ 2	
	特別損失	7,839	6,451	△ 1,388	
	過年度損益修正損	7,839	6,451	△ 1,388	
	当年度純損益	200,832	6,486	△ 194,346	

【経営指標に係る前年度比較】

項目 \ 年度	R4年度 決算値	R5年度 見込値	増減	備考
経常収支比率(%)	107.1	100.4	△ 6.7	
医業収支比率(%)	93.3	92.2	△ 1.1	
*職員給与費対医業収益比率(%)	53.5	55.0	1.5	
資金不足額(千円)	-	-	-	
資金不足比率(%)	-	-	-	
不良債務比率(%)	-	-	-	

\*職員給与費対医業収益比率は給与等(※)額を医業収益額で除算した比率。

【経営指標に係るプラン比較】

項目 \ 年度	R5年度 プラン目標値	R5年度 見込値	増減	備考
経常収支比率(%)	100.4	100.4	0.0	
医業収支比率(%)	92.8	92.2	△ 0.6	
*職員給与費対医業収益比率(%)	53.6	55.0	1.4	
資金不足額(千円)	-	-	-	
資金不足比率(%)	-	-	-	
不良債務比率(%)	-	-	-	

\*職員給与費対医業収益比率は給与等(※)額を医業収益額で除算した比率。

### (3) 資本的収支の概要

令和5年度の資本的支出については、建設改良としてCT、MRI、マンモグラフィ等放射線検査機器、内視鏡スコープ、人工呼吸器などの医療機器整備に加え、簡易陰圧室やPCR検査装置などの感染対策にかかる整備、病棟の空調設備更新や電動ベッドの購入による病室の療養環境の整備を行い、前年度より約3億5,576万円増の約4億1,076万円となりました。また、過去に発行した企業債の償還額は、前年度より約8,360万円増の約1億5,368万円となり、資本的支出全体では、前年度より約4億3,936万円増の約5億6,444万円となりました。

資本的収入については、支出の建設改良費に対する財源としては、新型コロナウイルス感染症対策事業医療提供体制整備費補助金等の補助金収入が約1,841万円、企業債の借入が約3億8,990万円となりました。また、過去に発行した企業債の償還元金に対する他会計補助金は、前年度より約4,646万円増の約8,622万円となり、資本的収入全体では、前年度より約4億4,177万円増の約4億9,453万円となりました。

#### 【資本的収支の決算見込み】

(単位：千円)

項目	年度	R4年度 決算(税込)	R5年度 決算見込(税込)	R4年度 との増減額	備考
資本的収入		90,358	494,528	404,170	
	他会計補助金等	39,758	86,219	46,461	
	県補助金・寄付金等	0	18,409	18,409	
	企業債	50,600	389,900	339,300	
資本的支出		125,081	564,441	439,360	
	建設改良費	54,998	410,757	355,759	
	企業債償還金	70,083	153,684	83,601	
差引		△ 34,723	△ 69,913	△ 35,190	



#### (4) 一般会計繰入金の概要

前年度との比較では、前年度より約2,652万円増の約4億8,278万円となりました。主な要因としては、病院経営に関する収益的収入に対する繰入金は経営努力により約1,994万円の減となったものの、医療情報システムの更新等に伴う元金償還額の増より資本的収入に係る一般会計繰入金が約4,646万円増加したことによるものです。

新改革プランの目標との比較では、約4,935万円増となりました。主な要因としては、収益的収入に対する繰入金は経営努力により概ねプラン目標と同水準となりましたが、プラン策定時に予定していなかった医療情報システムの更新等に伴う元金償還額の増より資本的収入に係る一般会計繰入金が約4,641万円増加したことによるものです。

#### 【一般会計繰入金に係る前年度比較】

(単位：千円)

繰入金内訳	R4年度 決算額	R5年度 決算見込	R4年度 との増減額	備考
医業収益	201,826	196,816	△ 5,010	
他会計負担金	201,826	196,816	△ 5,010	
医業外収益	214,679	199,746	△ 14,933	
他会計負担金	146,207	131,204	△ 15,003	
他会計補助金	68,472	68,542	70	
特別利益	0	0	0	
他会計補助金	0	0	0	
収益的収入計(A)	416,505	396,562	△ 19,943	
資本的収入	39,758	86,219	46,461	
資本的収入計(B)	39,758	86,219	46,461	
繰入金総計(A)+(B)	456,263	482,781	26,518	

#### 【一般会計繰入金に係るプラン比較】

(単位：千円)

繰入金内訳	R5年度 プラン目標値	R5年度 見込値	新改革プラン との増減額	備考
医業収益	161,900	196,816	34,916	
他会計負担金	161,900	196,816	34,916	
医業外収益	231,721	199,746	△ 31,975	
他会計負担金	133,194	131,204	△ 1,990	
他会計補助金	98,527	68,542	△ 29,985	
特別利益	0	0	0	
他会計補助金	0	0	0	
収益的収入計(A)	393,621	396,562	2,941	
資本的収入	39,806	86,219	46,413	
資本的収入計(B)	39,806	86,219	46,413	
繰入金総計(A)+(B)	433,427	482,781	49,354	

## 【取り組みへの評価】

### 3. 決算見込みへの評価

#### 経営指標

目標項目	実績、目標差	目標達成 評価	主な意見
1. 経常収支比率 100.4%	100.4% 0.0 ポイント	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標を概ね達成し、類似公立病院との比較でも同等とみられ、取組の継続に期待。一方、減価償却費が少ないことが寄与しており、施設老朽化への今後の対応に留意が必要。</li> <li>・とても頑張っている。</li> <li>・入院収益向上を期待する。</li> <li>・昨年度より 6.7 ポイント低下したが、コロナ補助金の縮小や廃止の結果であり、令和元年度以降 5 年連続で 100%を超え、プラン目標を達成していることから、十分評価に値する。引き続き継続する。</li> </ul>
2. 医業収支比率 92.8%	92.2% △0.6 ポイント	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標を概ね達成し、類似公立病院との比較でも同等とみられ、取組の継続に期待。一方、減価償却費が少ないことが寄与しており、施設老朽化への今後の対応に留意が必要。</li> <li>・入院収益向上を期待する。</li> <li>・費用削減が限界に近いため、医業収益増加を目指す。</li> </ul>
3. 職員給与費対 医業収益比率 53.6%	55.0% 1.4 ポイント	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収益増に直結するような人的投資を、戦略的な観点から中長期的に行われたい。</li> <li>・今後も人事院勧告により給与費の増加が見込まれるため、医業収益増加を目指す。</li> </ul>
4. 資金不足額 — (発生しない)	— (発生しない)	S	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ補助金が廃止された中、十分評価に値する。</li> </ul>
5. 資金不足比率 — (発生しない)	— (発生しない)	S	4. 資金不足額と同意見のため省略
6. 不良債務比率 — (発生しない)	— (発生しない)	S	4. 資金不足額と同意見のため省略

一般会計繰入金

目標項目	実績、目標差	目標達成 評価	主な意見
1. 収益的収入 393,621 千円	396,562 千円 2,941 千円	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・繰入金は助かると思う。民間は繰入金がないので、なるべく頼らず繰入金を減らせるのか検討されたい。</li> <li>・令和 4 年度より約 2,000 万円減額されており、評価に値する。</li> </ul>
2. 資本的収入 39,806 千円	86,219 千円 46,413 千円	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シミュレーションと比較するなど、償還計画も踏まえた企業債の発行を検討されたい。</li> <li>・医療情報システムの更新による増加があるが、必要不可欠であり、妥当と判断する。</li> </ul>

※目標達成度評価

S = 十分評価できる A = 評価できる B = 普通である C = やや評価できない D = 評価できない

## 4. 総合的な評価

### (1) 総合的な評価

目標項目	目標達成 評価	主な意見
①地域医療構想を踏まえた役割が果たされているか	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・軽症救急患者の増加は評価できる。</li> <li>・地域における軽症急性期、軽症救急、回復期疾患、在宅医療の受け皿としてよく機能しており、十分に評価できる。</li> <li>・仙台医療圏の辺縁に位置するものの、地域住民(市民)からの評価は高く、地元の「信頼できる」自治体病院として、欠くことの出来ない存在である。</li> <li>・経営的には、塩竈市の財政負担を少しでも軽減するため、入院収益を上げることが肝要である。</li> <li>・今後は、地域住民(市民)から、さらに「選ばれる」「誇り高い」自治体病院を目指すべきであり、地域住民(市民)に寄り添い、医療レベルが高く、アメニティ性も高い病院が求められる。</li> <li>・役割は拡大され、周囲への認知も増えてきていると感じる。更に応援したい。</li> <li>・救急患者の受入や在宅復帰支援は目標を達成しているが、急性期病棟維持や在宅医療充実は更なる取組が期待される。公立病院として期待される役割の発揮とともに、損益分岐を意識した運営に期待する。</li> <li>・プランの途中で、急性期病棟の一部と慢性期病棟を地域包括ケア病棟に転換し対応した。施設の老朽化が進む中で、救急医療、感染症対策にも可及的に対応したことは評価に値する。</li> </ul>
②積極的に経営の効率化に取組んでいるか	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出来る範囲でよく頑張っている。</li> <li>・今後は、さらなるチャレンジが必要である。</li> <li>・種々評価できます。</li> <li>・市立病院の魅力のアピールに取り組まれない。新病院建築はアピールとして早道かと思うが、自助努力を更に工夫されてはいかか。院内でストロングポイントを抽出し、その中から、外部に伝えたい点をしばり発信するとともに、各部署では成果を出すための工夫に取り組めば、少しずつ市立病院の良いところが利用者に広まると考える。</li> <li>・施設が老朽化し様々な制約がある中、努力がうかがえる。引き続きの取組に期待する。</li> </ul>

		<p>・診療単価の低い慢性期病棟を廃止した。急性期病棟の在院日数を短縮化し、地域包括病棟へのスムーズな転棟を行った。時間外労働の短縮に積極的に取り組み、人件費の削減を行った。</p>
--	--	---

※目標達成度評価

S = 十分評価できる    A = 評価できる    B = 普通である    C = やや評価できない    D = 評価できない

**(2) 総評**

総評として、今般の医療機関を取り巻く課題や同規模病院の経営指標を考慮すれば、塩竈市立病院の令和5年度の取組状況には様々な努力がみられ大いに評価できる。特に修正医業収支比率が5か年連続で80%以上を維持していることは、令和元年度に実施した病棟再編が功を奏し、安定経営が図られている結果といえる。

しかしながら、延入院患者数の減少は病院経営の根幹に関わる重要な課題であり、原因の分析と改善に向けた取り組みが必要であると考え。議論の中では、平均在院日数の最適化や一般病床と地域包括ケア病床の病床数の再検討などが提案されたところである。

また、耐用年数を大幅に超過し老朽化する現施設の整備は、安心安全な医療の提供と患者や職員獲得の面で喫緊の課題である。また、改修規模によっては、減価償却費や企業債償還額の大幅な増加につながるため、安定経営の継続のためには、更なる収支の健全化が求められるところである。

計画年度全体を通して、令和元年度の回復期病床拡充のため病棟再編や令和5年度の今後に向けた感染症への対応能力の強化、救急患者の積極的な受入継続など、公立病院として求められる医療を現施設で可能な限り取り組む姿勢と健全経営への努力は、職員一丸となり取り組んだ成果であると、大いに評価できる。

今以上に市民から愛され、地元の「信頼できる」自治体病院として、「選ばれる」、「誇り高い病院」となるためには、改善の余地があるものと考え。今後の更なる経営力の強化を期待する。

## 【参考資料】

### (1) 塩竈市立病院事業の主な経営指標

塩竈市立病院新改革プランの主な指標について平成28年度からの推移を示します。

#### ① 主要な経営指標

(単位：%)

	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度 ※注1	R4全国 類似団体 平均
病床利用率	86.1	85.4	81.1	75.9	71.3	73.0	72.2	70.9	68.1
人件費比率	55.0	53.3	61.7	55.2	62.5 (会計年度職員 を含む)	60.6 (会計年度職員 を含む)	58.7 (会計年度職員 を含む)	60.1 (会計年度職員 を含む)	56.1 (会計年度職員 を含む)
経常収支比率	98.2	102.1	100.1	100.3	100.2	100.4	107.1	100.4	104.2
医業収支比率	88.5	89.7	83.7	90.3	89.4	92.8	93.3	92.2	90.4
修正医業収支比率	82.9	83.8	77.5	83.6	82.5	85.6	86.2	85.2	85.8
累積欠損金比率	136.3	138.6	143.3	138.7	140.6	130.2	121.2	123.6	44.6

(出典. 総務省 各年度度病院経営分析比較表及び令和4年度地方公営企業年鑑)

※注1 R5年度数値は、塩竈市立病院事業会計決算見込み値

#### ② 医師一人当たりの患者数

(単位：人・上段は塩竈市立病院、下段( )は全国類似団体平均)

	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
入院	7.2 (7.3)	7.0 (7.3)	6.6 (7.2)	5.9 (7.1)	5.7 (5.8)	5.9 (4.8)	5.8 (4.9)	5.7 (—)
外来	8.1 (13.2)	8.0 (13.0)	8.1 (12.8)	7.8 (12.4)	7.5 (10.0)	8.0 (9.3)	8.0 (9.8)	7.8 (—)

(出典. 総務省 各年度病院経営分析比較表)

## (2) 宮城県内主要公立病院との比較

※ 出典は、総務省 各年度病院経営分析比較表より

※ R5年度数値は、R5年度塩竈市立病院事業会計決算見込み値

### ①修正医業収支比率及び修正医業収益

(単位：上段 %・下段 億円)

	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
塩竈市立病院	82.9 (23.9)	83.8 (23.1)	77.5 (22.1)	83.6 (22.9)	82.5 (22.5)	85.6 (24.2)	86.2 (24.5)	85.2 (24.0)
仙台市立病院	81.5 (130.4)	82.4 (135.9)	83.5 (144.4)	84.8 (148.3)	82.0 (142.9)	82.5 (145.6)	84.8 (158.9)	
石巻市立病院	33.7 (7.6)	49.6 (19.4)	53.8 (22.6)	56.0 (24.1)	55.3 (24.1)	59.4 (26.1)	61.6 (26.9)	
気仙沼市立病院	86.2 (72.8)	82.6 (71.9)	74.5 (75.4)	76.4 (77.0)	74.5 (72.9)	76.7 (76.1)	79.0 (79.0)	
登米市民病院	74.7 (35.9)	70.2 (35.4)	70.1 (34.5)	72.3 (34.8)	74.6 (34.1)	77.7 (37.1)	78.1 (36.8)	
栗原中央病院	80.9 (36.0)	81.5 (40.1)	84.2 (42.4)	76.0 (42.9)	78.8 (45.6)	80.4 (48.3)	83.9 (49.9)	
大崎市民病院	89.8 (170.9)	91.0 (177.7)	92.2 (180.7)	91.8 (187.2)	90.4 (185.1)	93.2 (198.2)	93.2 (206.2)	
刈田綜合病院	72.8 (41.4)	76.5 (42.3)	79.5 (42.2)	79.8 (43.4)	64.5 (30.7)	65.4 (25.0)	66.0 (23.7)	
県南中核病院	84.0 (77.6)	80.9 (74.5)	85.0 (75.8)	87.4 (79.2)	84.5 (79.4)	87.1 (86.4)	88.8 (92.7)	
公立黒川病院	90.0 (28.6)	91.0 (30.5)	93.3 (29.7)	87.4 (27.2)	89.5 (25.7)	— —	— —	

### ②他会計繰入金対総収益比率

(単位：上段 %・下段 億円)

	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
塩竈市立病院	15.9 (4.7)	17.6 (5.1)	21.3 (6.2)	14.8 (4.2)	15.9 (4.5)	14.2 (4.2)	13.3 (4.2)	13.5 (4.0)
仙台市立病院	11.0 (20.4)	12.3 (19.6)	11.7 (19.6)	11.7 (20.0)	10.8 (20.3)	9.3 (19.3)	9.2 (18.6)	
石巻市立病院	13.6 (5.1)	28.1 (11.1)	28.8 (12.9)	25.9 (12.0)	23.4 (11.4)	14.3 (9.7)	15.6 (7.1)	
気仙沼市立病院	9.7 (7.9)	10.2 (8.3)	10.4 (10.1)	9.3 (9.1)	8.7 (9.8)	9.9 (11.2)	9.2 (10.4)	
登米市民病院	18.6 (8.5)	19.3 (8.8)	19.8 (9.3)	21.1 (10.1)	18.8 (10.1)	16.1 (9.3)	16.2 (8.9)	

	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
栗原中央病院	18.6 (8.5)	18.0 (9.1)	14.8 (7.6)	13.2 (7.2)	14.2 (9.0)	12.1 (7.8)	12.3 (7.8)	
大崎市民病院	8.6 (17.2)	8.4 (17.5)	8.3 (17.5)	8.0 (17.4)	7.7 (12.8)	7.0 (16.5)	6.9 (16.5)	
刈田総合病院	18.9 (9.9)	17.9 (10.1)	13.2 (6.7)	8.7 (4.3)	12.9 (5.6)	13.5 (4.5)	22.8 (7.7)	
県南中核病院	8.4 (7.3)	8.8 (7.5)	9.2 (8.0)	9.5 (8.6)	9.0 (8.8)	8.7 (9.5)	8.2 (9.2)	
公立黒川病院	6.1 (1.9)	5.6 (1.8)	5.8 (1.7)	6.4 (1.9)	6.4 (1.8)	— (1.5)	— (1.6)	

### ③患者 1 人当たり診療単価

(単位：円・上段 入院・下段 外来)

	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
塩竈市立病院	29,820 12,790	29,809 11,636	30,144 10,694	33,591 10,694	35,735 10,985	36,359 12,157	36,334 12,795	36,519 12,661
仙台市立病院	70,001 13,444	69,148 13,907	72,861 14,449	71,322 16,914	73,658 18,349	79,005 19,425	80,372 19,297	
石巻市立病院	31,979 12,313	35,420 12,803	35,562 12,323	37,440 12,287	39,144 12,744	38,308 13,341	40,006 14,828	
気仙沼市立病院	45,392 12,043	45,769 12,603	44,352 13,026	45,510 13,628	48,881 14,180	49,716 14,488	52,175 15,321	
登米市民病院	33,300 9,171	34,082 11,816	33,781 12,418	34,087 13,288	37,878 14,557	39,697 14,731	40,751 15,099	
栗原中央病院	36,769 10,346	39,981 10,291	40,357 10,534	40,830 10,883	46,759 11,290	50,308 11,525	51,899 11,754	
大崎市民病院	69,942 21,200	72,583 22,305	74,528 22,785	73,624 25,506	77,281 25,721	81,093 27,564	82,618 27,381	
刈田総合病院	39,832 10,091	40,024 10,142	41,472 10,350	42,113 10,623	40,930 11,558	37,496 12,073	35,824 12,774	
県南中核病院	56,016 14,242	57,139 13,029	59,036 12,528	60,118 13,101	63,234 14,824	66,845 14,294	70,598 16,002	
公立黒川病院	34,829 15,156	36,186 15,904	36,000 16,766	37,373 17,861	37,542 18,781	— —	— —	



## 塩竈市立病院事業調査審議会委員名簿

(順不同 敬称略)

### 【委員】

委員名	職名等	備考
藤森 研司	東北大学大学院医学系研究科医療管理 学分野教授	会長
赤石 隆	宮城県塩釜医師会会長	副会長
佐藤 賢一	東北医科薬科大学病院 病院長	
齋藤 淳	宮城県保健福祉部医療政策課地域医療 連携担当課長	
今西 陽一郎	株式会社アイブレイン代表取締役 病院事業経営アドバイザー	
中嶋 満枝	市民代表	
千葉 幸太郎	塩竈市副市長	
福原 賢治	塩竈市立病院事業管理者	